

会 議 録	
会 議 名	令和7年度第3回丸亀市立学校適正配置等検討委員会
開 催 日 時	令和7年12月15日(月) 午前9時30分～午前11時00分
開 催 場 所	丸亀市役所 特別会議室
出 席 者	出席委員： 漆原 光徳・植田 和也・國木 良輝・平田 貴久・河野 恵 真鍋 真紀・秋山 弓美・金澤 泰宏・嵯峨根 真千子 岩崎 正朔・吉利 俊弘・樋口 倫(敬称略) 欠席委員： 長谷川 晃・池田 智香子・香川 真実(敬称略) 事務局： 末澤教育長・山下教育部長・岩井学校教育課課長・吉田協働 推進部地域づくり課課長・土井教育部総務課課長・後藤教育部 総務課副課長・今井学校教育課副課長・鎌谷学校教育課指 導主事 高木学校教育課指導主事・遠藤学校教育課指導主事
傍 聴 人	0名
次 第	次 第 1 開会 2 教育長あいさつ 3 議事 (1) 適正配置についての協議 (2) 次回検討委員会についての確認 4 事務連絡 5 閉会
事務局  教育長	皆様おはようございます。定刻が参りました。 ただいまから第3回丸亀市立学校適正配置等検討委員会を開催いたします。 それではまず初めに、教育長が挨拶申し上げます。  改めましておはようございます。 12月に入りまして、大変、何かしら、気ぜわしい感じがいたします。また、 学校関係では、インフルエンザが今猛威を振るっておりまして、いろいろ 気を揉んでいるところでございます。 そういった中、第3回の丸亀市立学校適正配置等検討委員会にご案内を差 し上げましたところ、お忙しい中ご出席を賜り本当にありがとうございます。 第2回の会議におきましては、皆様のおかげで、適正配置に向けての論点 が整理されたと喜んでおります。本日、適正配置、適正という観点から、 皆様の様々なお立場からご意見を賜ればありがたく存じますので、どうぞ よろしくお願い申し上げます。

事務局	<p>なお、本日は長谷川委員、香川委員、池田委員がご都合により欠席されています。あらかじめご了承ください。</p> <p>本日は15名中12名の委員が出席しており、委員の過半数が出席していますので、本委員会は成立しております。なお、本日の傍聴人はいません。</p> <p>また、本委員会は、後日、議事録を作成し、丸亀市のホームページ上で公開することとなっており、議事録作成のために、皆様のご発言を録音させていただいておりますので、ご了承ください。</p> <p>また、ご発言をされる際は、必ずお手元のマイクをご利用ください。ご協力をお願いいたします。なお、議事録の公開にあたっては、発言の委員名は伏せて公開します。</p> <p>では、議事の進行を漆原会長様、よろしくをお願いいたします。</p>
漆原会長	<p>はい。皆さんおはようございます。</p> <p>着座で会議を進めさせていただきます。どうぞよろしくをお願いいたします。お手元の会議次第にありますように、本日は適正配置につきまして協議をしていきたいと思っております。これまで8月にありました第1回の検討委員会では、事務局の提案資料を基にしまして、委員の皆様からご意見をいただきました。</p> <p>続く10月にありました第2回の検討委員会では、事前に皆様からいただきましたご質問につきまして、事務局から回答をしていただいたところです。このように、第1回から第2回にかけて、学校教育全般につきまして、様々な視点から幅広いご意見を皆様からいただけてきました。</p> <p>本日、第3回の委員会ですが、今まで協議しました内容の中から、いよいよ、適正配置、それから適正規模につきまして、焦点化してですね、議論して参りたいと思います。先ほど教育長さんからもそのお話がありました。本日の資料2枚目にありますが、会議次第をご覧ください。ここに示しております、3つの協議事項があります。第2回の検討委員会において、委員の皆さんからいただきましたご意見をもとにしまして、適正規模、適正配置の内容を絞った形で、第2回の会議の際に、私の方から整理させていただいた内容を、ここに示しております。</p> <p>本日も参加いただくにあたって、委員の皆さんには、本協議会事項についてご意見をいただけますように、事前にご依頼をさせていただきました。ですので、本日はこの3つの項目につきまして、協議をしていきたいと思っております。</p> <p>では早速ですが、協議事項の(1)①ですね。集団での学びを保障するための教育条件につきまして、協議したいと思います。</p>

漆原会長	<p>まず1つ目です。適切な学校規模について、学校の規模ですね。これにつきまして、委員の皆様からご意見をいただきたいと思います。どなたからでも結構ですので、挙手いただきまして、マイクを使ってご発言いただければと思いますが、いかがでしょうか。</p> <p>前回、委員の方から人数のことを少しご説明いただきましたが、国の方の指針といたしますか、いかがでしょうか。</p> <p>これも、それぞれの委員の皆様のお考え等々があれば、頂戴したいと思います。</p>
委員	<p>失礼いたします。実は、私、昨日、秋田に出張に行っておりました。秋田は教育県ということで、全国学力・学習状況調査等でも話題になっているんですが、やはり実は、周辺部は今もう統廃合の様々な話題が出ているんだと。ただ一方で、地域地域の事情があるというようなことで、当然学級数というのは、クラス替えがあるないとか、ずっと小学校でいうと6年間一緒、中学校でいうと3年間一緒で、1クラスであれば、そうならざるを得ない。当然その良さとまた課題等もあるんですが、そういう県だとかその地域地域によって、国の1つの通学距離や学級数規模の方針があったとしてもですね、結局それを超えての、やはり、目の前の子どもたちにどういう教育環境が重要なのかということがより柔軟にされておるような現状かなと思います。</p> <p>今実は、香川県内でも、幾つかのマスコミ等にも出ております市町の方において、学校の統廃合が話題になっております。そういった中でも、距離を越えてでもそこには「バスを走らせてでも」というような場合、いろいろ事情がありますので、一律にどうこうは言えないと。</p> <p>ただ、そういった時に社会の裾の問題を考える際に、大切にしたいのは、先ほど教育長様からもありました何が適正かということで、公正な視点と効率の問題、やはり自治体が存続すると。</p> <p>今、1クラスの中に様々な背景を持った子どもたち、多様な子どもたちがいますので、そういった子どもたちへの支援に必要な人の手当だとか、そういったこともありますので、やはり、公正と効率の面両面から考えていかなければいけないということが何よりですが、丸亀の現状を今日様々な立場の皆様からご意見をいただくことが、やはり重要かなと思っております。</p> <p>以上です。</p> <p>はい、ありがとうございます。</p>

<p>漆原会長</p>	<p>非常に重要な視点でして、そこを踏まえて、それぞれの委員さんの地域の状況等々もあると思います。そこも踏まえた上で、いかがでしょうか。</p> <p>学校の規模、学級数、両方とも絡んでくるところではあるんですが、ちなみに、第1回のこの委員会資料で配布されました資料の中では、小学校の学級数は12学級以上18学級以下を標準とするということが書かれています。</p> <p>いかがでしょうか。</p>
<p>漆原会長 委員</p>	<p>失礼いたします。方向性を示していただきましてありがとうございます。学校の適正規模ということですが、学級数の問題等ございますが、やはり具体的に、各学校においてどのような教育上の課題があるか、これはやっぱり基本的に考えていく必要があるかなというような、お示しであったかなと思います。</p> <p>ですので法令上、国が示している、学校規模の標準単位の学級数に加えた上で、やはり学校全体の児童生徒数やその将来推計ですね、これもお示しいただきました。</p> <p>具体的にどのような課題が生じているのか、また生ずる可能性があるのか、また課題を最小化するためにどういった対応を考えていくのか、ということをつまららかにするような視点が大事じゃないかというような、ご指摘だったかなというふうに思います。</p> <p>やっぱり丸亀のデータを示していただいたんですが、小中学校において、19学級以上が、城坤、郡家、西中、南中で、いわゆる適正規模の範囲に該当するのが、城西、城南、城東、城辰、飯野、垂水、飯南、飯北、東中、飯山中、このあたりの標準学級を。さりとて、やはり11学級以下の学校ですね、城乾6、城北8、岡田が11、栗熊6 富熊8 綾歌中9、広島、本島小中1ということで、やはりいわゆる過大規模とか大規模校はございませんが、いわゆる、分類上いきますと小規模校、特に極小の島しょ部のあり方等もやっぱり重要な観点かなあというふうには思います。</p> <p>ですので、やはりこの辺りを、現状を踏まえてどのような学校課題があるのかなというところをつまらかにしていく必要があるのかなというふうには思いました。</p> <p>ですので先ほど会長がお示しいただきましたように、それぞれ、やっぱりメリットデメリット。でやっぱり小規模校ならではのメリットデメリット、このあたりやはり、今後ですね子どもたちが減っていくというところで、この辺りを少しやっぱりつまらかにしていく必要があるのかなと。</p>

	<p>一般的に言われていることはたくさんございますが、そのあたり、細かいところでその立場からご意見をいただけたらありがたいなあというふうに思うのですが。</p> <p>失礼します、私の方からは本当に感覚的な問題で申し訳ないんですけども。やっぱり、単学級になると、クラス替えがないという、人間関係がずっと続いていく。そういう意味でいい面もあるんですけども、やっぱりそのクラス替えがあるような状態、複数学級あるということが、子どもたちにとっても、活性化が図れるし、それから先生方にとっても、本当に学年団で全体の子どもたちを見ていく。</p> <p>先生方が、教材研究するにしても、同じ土俵で話ができ、それからたくさんいろんな規模が大きくなると、専門性を持っている先生方がたくさんいるので、そういう先生方で切磋琢磨して、それを子どもに返していくことができる。というような面も考えた子どもの面から考えても、先生方のそういう資質向上という面から考えても、ある程度の規模があった方が、子どもに、メリットが大きいのかなと思います。</p> <p>それと、国が示している 12 学級以上 18 学級以下ということなんですけども、文科省の資料を見ると、特別支援学級も含めてということなので、今、特別支援学級も含めたら、多分、小規模校でも 2 学級 3 学級、学校によってありますので、いやそういう意味で、12 学級以上という場合でも結構たくさん学校の該当するんじゃないかなと思ったんですけども。</p> <p>だから、一方で 11 学級以下というのは本当に小規模校だと思いますから、そういったところが、統合して、大規模校のメリットを享受できるようになるといいなあというふうには私は思っております。はい、以上です。</p>
委員	<p>はい。ありがとうございます。</p> <p>学年に 2 クラス以上はないとクラス替えは当然できないということになってしまうと思いますんで、そのことは 1 学級の児童生徒数というところとも絡んでくるんですが、もうそこも含めて、この①のところのご意見を伺えればと思うんですが。いかがでしょうか。</p>
漆原会長	<p>はい。今、お話を聞かせていただきまして、保護者の立場ということがございます。それで丸亀市内ですね、17 のコミュニティさんがありまして、小学校があるというような現状でございます。</p> <p>保護者の立場としては、コミュニティ、地域っていう観点かと思っておりますんで、やっぱりその地域の中には卒業生がいますし、だんだん生徒が減って</p>
	委員

るねっていうのはもう、特に地域の学校でしたら痛感してるところではございます。しかしながらやっぱり、地域の思いというのは、学校というところですので、小学校中学校ですね、思いというのが強くなってしまふのかなと思っております。それで私、PTA、市P連の立場としてはやっぱり、今から少子化、少子化ってもう10数年前から言ってることですけど、その学校運営自体もやっぱり小規模になるっていうことですから、そこは見直しを図らないとはいけないと思うんですけど、やっぱり地域地域で、そこは考えていくような形。そしてもう、行政の観点からって言いましたら、やっぱりそれは、くっつけくっつくとか、そういった話になると思うんですけど、そこをうまくすり寄せていくような形をとるべきではないのかなと思っております。ちょっといろいろと。うん。先生のお話いただいたこととはちょっと異なるんですけど、割とやっぱり、みんなの思いというのは、学校には深いという形かなと思っております。すいません。

はい。ありがとうございます。

漆原会長

委員

中学校の方の立場から、失礼します。今、委員の皆様のお話をお伺いして、やはり、2クラスは欲しいなというか、そうですね。私も県内なんですけれども、そこで、小学校中学校と進んで、そこを卒業したんですけれども。30年35年以上前の話ですけれども、田舎の方だったんで、当時からも、クラス数2クラスがぎりぎりっていう、今の数字でいうと2クラスでも何とか分けていたぐらいの人数しかいなかったんですけれども。やはり、1クラスよりはいろんなものがリセットできたりとかっていうのもあったりもするので。はい。やはり人数。人数自体は、20人くらいだったかなと。本当にこの数字から言うと、本当にぎりぎりだったんですけれども、20人だと、結構こう発言ができるという、その他大勢みたいな、のとはちょっと違う雰囲気だったのかな。アットホームと言ったらあれですけれども、そんな感じだったのかなとも思いますし、なので、無理やりにといいとあれですけれども、2クラスはやっぱり欲しいのかなっていうのは、正直、思っています。1クラスの人数も、そうですね。いろんな多様なお子さんがいらっしゃるということであれば、少し少なめというんですかね、20人から25人くらいだったら、きめ細かくご指導がいただけるのではないかなっていうふうな。感覚的なものですが、ちょっと自分が子どものころを思い出して、そんな感覚で話を聞かせていただきました。以上です。

はい。ありがとうございます。今おっしゃったリセットがかかるっていう

漆原会長

のは、学校生活ではすごく貴重な経験だと思います。特に思春期に入っている中学校期っていうのは、人間関係のリセットっていうのは大きいのかもしれないなど、今聞いていて思いました。私なんか、小学校は5クラス6クラス、中学校になると8クラス9クラスありました、宇都宮の駅の近くだったので。だから同級生と同級会で会っても知らないという、6年間小学校通っても1度も同じクラスにならない。中学校でも1度も同じクラスにならないというようなのがあって、今思うと、あれはどうだったんだろうというふうに、逆に思うんですね。40人45人で教室が目いっぱい、もう一番後ろの席は黒板に頭がつくぐらいまで生徒が入ってる時代でした。ですから、そういう時代を経て今、どう持っていくかというところが重要になるんだと思います。

国の資料も地域の実態その他特別の事情があるときはこの限りではないということで、12学級以上18学級以下っていうのを標準としていますけれども、これは当然、人数とも関わってくるわけですね。そここのところも踏まえていかがでしょう。委員の皆さんから様々な意見をいただきたいと思うんですが、学級数、1学級の児童生徒数、人数ですね、規模につきまして、いかがでしょうか。ご意見いただければと思います。

委員

私はあまり学級の人数にはこだわりたくないというのは、本音でありまして、多少少なくなったりしますけどね。それ以上に、学校の存在感、ポテンシャルがものすごく大きいものですから。多少少なくなっても、学校は地域のシンボルでありますから、ずっと存在してもらわなきゃ、数で切るとするのは。防災関係でずっと20年関わっていますけど、やっぱり廃校というか、よそと統合した後の寂しい、その町を見ているものですから。何とも言えないのですね。だから少々少なくなっても、僕は学校、学校は存在して欲しいというのは願望でありますから。地域にとっても、後でしゃべろうと思ったのですが、子どもさんの明るい声が、ずっと日々聞ける、これはもう何事にも変えられないものですよ。あれがもうなくなったら、本当大きな大企業がおらんようになった町もありますけど、あれと同じやと思うのですよね。いやものすごくインパクトが大きい。だから僕は、1学年で2クラスというのが、大体平均的なものかと思いますが、私はそれにはあまりこだわらず、地域から見るとこだわりたくないというのは本音でありますから、以上でございます。

はい、ありがとうございます。

いかがでしょうか、①のこの集団での学びを保障するための教育条件とい

漆原会長	<p>うところ、3つ、学校の規模、学級数、生徒数・児童数がありますが、他に何かご意見は。どうぞ。</p>
委員	<p>まさしく学習環境という観点から、やっぱり学校規模とか、学級数、それから、1学級の児童生徒数って非常に大きな要素で、この3点をお示しいただいております。</p> <p>当然香川県の場合は、香川型指導体制で、35人以下学級というのはもう小中全学年で実施されているところです。ただ全国的に見ますとですね、もう30人学級を導入してる自治体もございます。先ほど22から25人というお話もあったんですが、もうすでにそういった施行もされてる学校もごございますので、やはり考え方はやっぱりその、学校の教育課題に対応するためのやっぱり、学級数、児童生徒数の配置であるという観点ですね。だから、いわゆる適正をどう捉えていくかという観点で非常に大きな要素になるのは、当然のことかなと思います。</p> <p>やはり、そのメリットデメリット先ほど少しお話をさせていただいたんですが、やっぱり学習環境って何なのかなということ、やはり何より、子どもたちのメリットを、まず考えていく必要があるのかなと。学校全体としては先ほど岩崎会長さんがおっしゃったように、やっぱり地域と一体化した学校っていうのは当然大事であって、学校はもう本当に存在がとても大きいというのはわかるんですが、子どもたちにとってどうなのかなという観点、そこにはやっぱり学習面、学びの保障、それから、生活面、人間関係等々ございます。</p> <p>やっぱり全人格的な発達をする上で貴重な集団での活動っていうのは、当然大きな要素になってきますので、やっぱり学びの保障と、やっぱそういった生活面、人間関係、それから、学校の教員がおりますので、やはり教員の、やっぱりメリットをですね、先生方もやっぱり、学び続けていただいて、教師としてより成長していく、いわゆる資質向上を図る面、それから、何より働き方改革を言われておりますが、やはり負担、教師としての負担、組織としての負担ということ。</p> <p>それから、やっぱり学校を設置するというのは当然学校の環境整備という、ハード面のことがありますので、これ行政の大きな負担になります。非常に学校存続という意味では、そういった学校運営上の環境の整備というところで、このあたりをきちんと考えていく必要があるのかなと。</p> <p>そういうことを総合しながら、いわゆる、そののメリットデメリットはやっぱり明らかにしていく必要があるのかなということ、先ほどいろいろお話いただきましたが、全くその通りかなと思います。ですのでいろんな</p>

	<p>多角的な見方をとらえた上でのこういった議論が進んでいくことが必要かなと思いますので、ちょっと少しだけ、述べさせていただきました。</p> <p>はい、おまとめいただきましてありがとうございました。1番につきましては、では以上でよろしいでしょうか。</p> <p>次②の方に移らせていただきたいと思います。児童生徒の登下校についてということで、適切な、まずは通学距離のところなんですけれども、これも前回少しご意見も出ましたけれども、このあたりのところいかがでしょうか。ご意見いただければと思います。</p> <p>これもまさに、地域の差が出てくるところかと思います。いかがでしょうか。どなたからでもご意見があればいただければと思いますが。いかがでしょうか。</p>
<p>漆原会長</p> <p>委員</p>	<p>通学距離のことなんですけれども。資料いただいておまして、私の地元の小学校周りの地図で半径2キロぐらいで作図してみて、自分たちのその学校がどれぐらいの範囲に及んでおるのかなって見てました、学校の位置からですね。飯山南小学校ですけれども、最長と思われるところ若干誤差はあるかもしれませんが1.9キロ、大体2キロ弱。これは直線距離ですので、実際は、道路は曲がっておりますのでもっと長いかと思いません。</p> <p>私は、学校の一斉下校の時に巡回します。それで下校の状態をいろいろ見るんですけれども。それぐらいの範囲だとですね、特に問題なく、元気に、最後の方まで歩いて帰ってるみたいです。それと、三豊市のことになりますが、そこはちょっと距離は近いんだけど、子どもたちの実際のこの感覚を知りたくて聞いてみました。要は、ランドセルの中身の重さ、教材の重さ、手提げみたいなものを持って歩く、歩くことありますよね。その辺の負担がどうなのかなということで聞いてみると、最初はちょっと重かったけどもう慣れたと、平気だと、6年生は、特に重くは感じないということで。やはり私自身も、毎朝4キロぐらいは歩いておまして、歩くこと自体、子どもと大人は違いますけど、大人でもやっぱり荷物を持って歩くっていうのは、非常に抵抗があります。何も持たずに歩くんだと私、1日長いときは10キロを超えて歩くんですけど、物を持って歩くということを考えると、ちょっと1キロでもね、ちょっと考えてしまいますね。そういったことも含めて、私自身はやっぱり、今の現状で飯山南小なんですけど2キロから2.5キロぐらいの距離があると思いますけど、それぐらいまでかなというふうな感じですね。以上です。</p>

<p>漆原会長</p>	<p>はい、ありがとうございます。ちなみに、文部科学省ではですね、小学校で4キロ、中学校で6キロっていう目安が出ていたかと思います。その辺も踏まえて、いかがでしょうか。委員の皆様方お考えがあれば、この距離のところ、三豊なんかでは、スクールバスの運用ということになっているようですけれども。その辺りも含めてご意見ありましたら、頂戴したいと思います。</p> <p>意見もないようですので次のところと絡めてですね、よりよい通学方法についてということで、こちら第1回の検討委員会の際に、委員さんの方から通学についてのご意見ありました。親御さんが送ってくるとかということだったかと思いますが、このあたりいかがでしょうか。</p>
<p>委員</p>	<p>保育所の幼児の通園は、保護者による送迎なんですけれども、割と近くからでも、保護者の方の通勤の途中なので、車で送ってくる家庭が多いです。で、本当に歩いてくる子は、ほぼほぼ今富熊でも見かけない状態です。小学校の通勤距離4キロというところを知った時に、年長児さんが小学校に上がって急に歩いていくっていう時の心配はめちゃくちゃあるんですけれども、よく歩いて行ってるなっていう感覚です。</p> <p>1年生から6年生って言ったら6年の年の差がある中で、同じ距離感、そこは、1年生だから短い距離とかいうは無理やと思うんですけど、大きな差があるんだなっていうところは思っていて、保育所でも、本当に最近、そういう運動する機会、運動までいなくても、ちょっと歩くのが本当に子どもたち減っていて、そこはすごく心配しているところです。なので保育の中でも、体を使う遊びなどをなるべく取り入れて、体力がつくようになってというのは、本当に特に年長児さんには、気をつけたりしているところではあります。</p>
<p>漆原会長</p>	<p>はい、ありがとうございます。いきなり小学校になると、小学生になると歩かなきゃいけないという状況が出てくるというのは、私も自分の子どもを考えて、この距離歩けるのかなって大きなランドセルを背負ってですね。かつてはおそらく集団登校で子どもの数が多かった時は、ワーツとみんなで行っていたと思うんですけど、少子化の中で恐らくそこも難しくなるのかなという気がします。かつてのように10人ぐらいで固まって歩いているっていうのを最近見なくなったような気が、私はしておりまして、その辺りの状況も変わったのかなというふうに、思っています。いかがでしょうか他に。</p>

委員	<p>西中学校は1.5キロ以上の方は、自転車通学です。でも、やっぱり1.5キロでも荷物とかがあるので、子どもたちはやっぱり自転車通学を望んでいるのは事実です。ただ、自転車通学、申し訳ないんですけど、これも指導が十分行き届いてないんですけど、ちょっとルールを守れない人、交通ルールを守れない生徒も多いのは事実です。先生方に言って立哨指導とか、交通指導とかいっぱいしていただくんですけど、なかなかルールが守れないのが、申し訳ないです。現状なのです。なので危険です。</p> <p>あと、おうちの人の送迎というのも、以前と比べたら多くなってきたのかなあと。その場合、学校の前の道が渋滞を起こしてしまうという点もあるので、そういうのも問題というか課題かなと感じています。はい、以上です。</p>
漆原会長	<p>はい、ありがとうございます。ちなみにその親の送迎に関しては、学校の方では指導といいますか関与はしない状況なんですか。</p>
委員	<p>特別には。ただ、地域のルールなんですけど、本校の東側の道路なんですけど、7時30分から8時30分まで進入禁止になっておりまして、その注意喚起は複数回しています。</p>
漆原会長	<p>はい、わかりました。自転車の1.5キロっていうのは、本人から申告があった場合に、チェックをして許可するような形になってるんでしょうか。</p>
委員  会長	<p>はい。自転車通学許可願がありますので、それに書いていただいて、概ね1.5キロ以上の方が出してくれるので、そこでもめるっていうことはないんですけども。あと、健康面とか体調面で配慮はさせていただきますし、本校、部活動が、校外でしている部活動がありまして、そこに行くので利用するっていうのも許可しています。</p> <p>はい、ありがとうございます。それこそ部活動の地域展開の議論にも、私加わっておりまして、他の学校でやるってことになるのと、これ自転車で行かざるを得ないっていう状況が恐らくこれから出てくるんだろうなっていうふうに思っておりまして、それについても何かありましたら、よろしいでしょうか。②番のところ、他にご意見がありましたら。はい、どうぞ。</p> <p>失礼いたします。通学の問題ですが、やはり子どもたちにとって、いわゆ</p>

委員

る登下校は学校管理下ということで、これ大前提になるんですが、やはり適切な通学距離とかより良い通学方法っていうのは、もう本当に大きな学校の課題かなと思っています。特に小学校中学校を通じてですね、最近特に気になるのが、当然発達段階に応じた体力面の配慮ということで、小学校4キロ中学校6キロという、この小学校4キロっていうのは現実的にとっても長い距離なんですね。

ある小学校で4.2キロという子がいました。その子どもは保護者の方針で絶対歩いて行かせる、保護者送迎一切6年間なしという、この子とっても鍛えられましたが、安全面は当然考えていかなければいけません。各校区における交通環境ってのはまちまちでございますので、市街地それから郊外、それぞれ丸亀市もいろんな交通関係は違いますし、どんどん新しい道路ができたり、それから何より車を運転される方々の意識も含め、これは当然、委員会だけじゃなくて、市それから警察関係ですね。それからセーフティネットとかいろんな関係団体が当然、安全確保のための取り組みをされておりますが、そういったことも十分考慮する必要があるのかなというふうに思います。

それから何より最近特に考えるのが、夏の熱中症対策はですね、これ、小学校1年生2年生の低学年の子がですね、重いランドセルを背負って長い通学距離を、本当に朝はまだ、朝も暑いですよ。実際、どうしてもやっぱり親の心情としたら、もう暑い特に帰りなんかは、早い時間帯に帰るようなこともまあありますので、非常に心配をしておりました。ただ、小学校は、放課後児童クラブがありますが、中学生も自転車で長い距離、夏の暑い時期の登下校、それから部活動というような、そういった安全面の配慮っていうのが非常に大事になってくるかなと。

それから、統廃合に伴ってやはり、もし今後ですねそういう場があった時は、当然通学距離の問題が出てきて、香川県の各自治体もスクールバスの導入とかいろいろあるんで、これは非常に自治体としてはですね、費用負担がとっても大きくて、そういう状況を聞いております。ですので、そういうこともちょっと考えていくだけの大きな要素になってくるのかなと思いますので、単にスクールバスを導入したら行けるとかそういう議論じゃなくてですね。多方面からいろんな子どもの動線も含めて考えていく必要があるかなというふうに思いました。はい、以上です。

はい、ありがとうございます。統廃合になった場合は、やはりそのスクールバスっていうのは出てくるのかなというふうには思います。地域によっては、その地域のコミュニティバスとかですね、一般の乗り物というところ

漆原会長	<p>ろもあるようですけれども、その辺、今後の展開と含めて考えるとかなと思うんですが、現時点でいかがでしょうか。何かこの件に関して、②番目のですね、登下校について、ご意見ありましたら頂戴したいと思います。</p>
委員	<p>知り合いに、朝、学校の通学路で立哨をずっとやっている人がいます。ものすごいスピードで入ってくる乗用車が結構多いんで、困っているんだと。何かいい方法ないですか。看板を立ててみるかという話はやってるんですけど。それぞれの小学校に通学路のメインがあるんですけど、そこをやっばり何か表示して、ちょっと車の規制とかまた、要するに徐行して通ってもらわんと、ああいう狭いところを走られたら、子どもの命が危ないというような感じでいっぱい見られますんでね。そこあたりの整備を、全体的に見てもらわないかなのかなという気はしてますけども。</p> <p>はい、ありがとうございます。ある小学校では、学校の前に試験的に段差をつけて、ポコポコとこうなってスピードが出ないような、というようなのが、そうですねスクールゾーンとして、はい。そういったことも、ご意見として非常に重要なことかと思えます。</p>
漆原会長	
委員	<p>距離が長いと、出る時間が当然早くなるので、そうなってくると、朝ご飯食べないとか、ぎりぎりまで寝てるとか、やっぱり距離が優先されるので、出発する時間が優先されるので、朝やっぱりしんどいから、ぎりぎりまで寝かしといてあげたい。そうなってくると、朝ご飯食べれない、それでバタバタ送り出す。そうなってくると、夏とかそうですけど、やっぱり、朝食をやっばり欠食してしまうと、熱中症とか、やっぱりなりやすいですし、その発達の面からも、ご飯、朝ご飯抜くっていうのはあまりいいことではないかなとも思うので、やはりその時間、距離も当然そうなんですけど、そうなってくると、時間で換算すると、やはり小学生とかだったら、1キロ15分20分ぐらいかかるとなると、もう、めいっぱい頑張ったとしても30分。30分40分ぐらいが出発するのでしたら、逆算するんだとしたらそこが限界かなと、それ以上になってくると、やはりもう疲労ももちろんそうですし、そうになってくると睡眠時間の確保が必要になりますし、なので、結構時間的な部分は大きいかなとは思っています。はい、以上です。</p> <p>はい、ありがとうございます。非常に貴重なご意見だと思います。それで使われる時間って、結構もったいないですよ。確かに4キロ歩いたら、</p>

<p>漆原会長</p>	<p>おそらく小学生だと1時間ぐらいかかってしまうかと思いますが、先ほど2.4キロとおっしゃってましたっけ。大体30分、40分ぐらいですよ。そうですね。他にはいかがでしょうか。</p> <p>②のところよろしいでしょうか。それでは3つ目に、行かせていただきます。地域と学校の関係の重要性和学校のあり方ということで、これも両方合わせてでいいと思うんですが、学校の存在意義、或いは地域と学校の関係につきまして、先ほど、岩崎委員さんから地域のお話をいただきましたけれど、いかがでしょうか。</p> <p>この点につきまして、ご意見ありましたら、学校がシンボルだっているのはまさにその通りだと思います。明治以降の日本の学校制度の中で、学校、特に小学校が地域に果たした役割ってのは大きいかなと思うんですが、いかがでしょうか。</p>
<p>真鍋委員</p>	<p>失礼します。ある小学校では、先ほどの通学・登下校のことにも関連して、ちょっと地域との連携ってということでお話をさせていただこうと思うんですけども、今年度より、集団登校を廃止いたしました。主要幹線道路まで出ると、登校時間帯に何らかの学校に向いての流れができるので、今、何の問題もなく、登校できている状況です。</p> <p>中には、おじいちゃんおばあちゃんが一緒に歩いてくれたりとか、おうちの方が安全面のことを考えるとちょっとまだ心配だからというので、学校近くまで送り、一緒に歩いて送り届けてくれる保護者の方もおいでて、大変ありがたいことだなんて思っております。</p> <p>地域の方からも、それだったら何か地域でできることないだろうかっていうようなことで、毎週1回、下校時には青パトが巡回してくださったり、来年度からは垂水小学校見守り隊っていうのが発足することになっておりまして、今ボランティア募集であったり、見守り隊のネーミング募集ということで、地域の方が、子どもたちのために何かできることをっていうことで、動いてくださっていて、大変ありがたいなって思っております。</p> <p>それは、1コミュニティに対して1小学校があるからこそできることではないかなと思っております。で、年度初め等のコミュニティの会に行くと、いつも、今年の在籍数は何名で、昨年度より何名減になっておりますっていうことをお話しすると、「減っているんだね」とかって言われて、すごく残念がっていて、どうにかして増えて、今のまま残っていけたらなっていうような思いが、地域の方にも強くあるみたいで、本当に学校は地域に守られているんだなっていうのを感じているところがあるので、ありがたいことだなんて思っているんで、そういう繋がりを今後も大事にしながら、学校</p>

<p>漆原会長</p>	<p>と地域がさらに連携が深まっていけたらなって思っているところです。</p> <p>ありがとうございます。集団登校がなくなったのは、私全く知りませんでしたけれども、今そういう状況に、小学校も変わり始めているんでしょうか。</p> <p>市内の小学校でも、登下校の見直しということで、集団登校をなくしている学校が数校出てきています。</p>
<p>委員</p>	<p>かつては上級生が迎えに来てくれて、1年生連れてくみたいなのがありましたけど、随分やっばり時代とともに状況も変わったんだということがわかりました。はい、ありがとうございます。地域との繋がりということをお話いただきました。いかがでしょうか。</p>
<p>漆原会長</p>	<p>学校の存在意義としましては、やっぱり本当にシンボリックなものであるということで、社会性を身につけたりですとか、その地域ならではの文化とか歴史の継承というの、学校でしているのかなあと思います。そして、以前は、保護者の相談場所でもあったかなあと思っているんですけども、最近はどうなんでしょうかっていうのも、少し疑問に感じたりする場面もあります。小規模校、大規模校にかかわらず、保護者同士の繋がりというのがとても希薄になっているなあという感じは受けています。共働きが増えたりとかシングル家庭が増えたりとかということで、保護者の方の時間がなかなか子どものために作ることが難しい状況というのは、本当に深刻な問題なのではないかと思います。児童の虐待相談数というの、年々上がっているということも、学校の方でも把握していただきたいですし、保護者と地域と学校とそれぞれが、目を光らせてではないんですけど、少しずつ担っていくものなんじゃないかなあと思っています。</p>
<p>委員</p>	<p>最初のことに戻りますけど、集団の学級数ですとか規模ですとかというのは、どれが適正かというのは、国の方針はあると思うんですけども、丸亀市において、人口が減少していっているというのは確かなことであって、大規模校であればそこでいろいろな学びができるというのも確かなんですけども、少人数になっていくのであれば、大規模にするのか少人数の学校にするのかっていうのは、その地域の特性によって決めていけばいいのではないかなと思っています。</p> <p>で、今、委員からご発言があったように、小規模校になっていって心配はあったけれども、小規模になったからこそ、再び学校と地域が強く繋がる</p>

<p>漆原会長</p> <p>委員</p>	<p>ということもあるんだなあということを感じています。なので、以前の、もう家庭のあり方、学校のあり方っていうふうに区別するのではなく、相互にお互い助け合いができるところは、相互に話し合うことが大切なのかなあと思っております。</p> <p>はい、ありがとうございます。いかがでしょうか。それでは①②③すべて含めて、どの点からでも結構ですので、ご意見いただければと思いますが。</p> <p>皆様のご意見を聞いてもその通りで、全く、多面的なところから考えなければいけないなと思っております。昨年 11 月に、ある市で中学校 3 年生が、社会科の中で地方自治という単元があるんですが、その中で自分たちの町の課題を考えようと。たまたまそこで子どもたちから出たいくつかの意見の中の 1 つに、学校の統合を進めるべきか、いや、維持すべきかということとを、2 時間かけて中学校 3 年生が意見を出しました。最後は、行政の担当の方にも来ていただいて、行政としての判断、なぜそうなのかというのをご説明がありました。子どもたちが考える際に、5 つの視点がありまして、1 つは、通学の問題です。これも安全面で、部活動が遅くなるよと。部活動が遅くなった場合に、暗くなるという、もう本当に具体的な生徒の生の意見が出ました。それと、地域の方の思い、やはり学校は地域の、私もその通りだと、地域の方の思い、学校の先生よりも、地域の方がずっと 10 年 20 年ずっと学校を見てきているという、そういうようなことと伝統、そして経済面というのは、学校の校舎はかなり古くてですね、今、日本の小学校中学校、応急的な耐震措置はかなりできてるんですが、今学校に求められている存在価値・意義の 1 つに、大きなものが避難所としての役割を果たさなければいけない。そして学校はエアコンを体育館に整備してくださいというのは、一応方針も出ました。しかし、大変なお金がかかるということで、子どもたちも知っていました。学校の自分たちのこの校舎、確かに大事に掃除しているんだけど余りにもでこぼこになったり、いろんなところでもう限界じゃないのというような声も正直ありました。でも学校を 1 つ建て替えるとすると、とんでもないようなお金で、これ国の当然補助ももらわなければいけません、なかなか今、非常に厳しいような状況で、地域行政も判断を困っているようなところが正直あります。中学生も結構その辺りを知っていてですね、その町の予算とかを全部示しましたし、自分たちならこうしたいと。</p> <p>中学生が言うには、教育にお金をかけるのであれば、どこかを削らなければいけない。それを、町の住民みんなが理解しなければいけないというこ</p>
-----------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

とです。つまり何かというと、最終行き着いた1つは、統合するしないにしろ、学校がどうあるべきか町づくり、丸亀市の町づくりについても、最初説明がありましたと思います、町づくりの計画、10年後をどう考えるか20年後どう考えるかといった、本当予測困難なところはありますが、そういったところと学校のあり方、10年後、そこを考えていかなければいけない。そして、学んでいる子どもたちがどう思っているかというところをやはり、学びの主人公は子どもであるという、そこを忘れないようにしなければいけない。ただ、避難所としての役割機能が今すべての学校に全部できてくるかといったら、そうじゃないというようなことも、一方で話題になりましたし、それは大変なお金がかかるということで、いろんな観点から中学生でもこんなに考えるんだということで逆に学ばせていただきました。そして何より今、本当に学校には、日本語指導が必要なお子さん、不登校傾向のお子さん、発達障害等で支援が必要なお子さん、今、スペシャルサポートルームということ、各学校可能な限り設置しなさいってのは、国の方針でも出ています。ですから、本当に今の学校に求められる多面的な、人のお金すべてかかるんですが、大変な状況で、10年後を考えるにどうなっているんだろうというようなことを、中学生と一緒に見せていただきながら考えましたが、ですから今日いろいろお話を伺いながらもその通りだなと思いながら、もう1つやっぱり地域から避難所として、学校が様々な自然災害で今使われていますが、本当にそういったところの整備もしていかなければいけないということで、そこにやはり財政的な大きな問題があるんだなということを感じております。だからどうこうというのはないですが、はい。

はい、ありがとうございました。貴重な視点だと思います。他にいかがでしょうか。全体を通しまして、さらにご意見等ありましたら、よろしいでしょうか。はい、どうぞ。

私は地域の行事で小学校中学校に入っていくながら、いろんな地域の行事に、子どもたちが本当にこの2、3年積極的に参加してくれたりして、先般11月の終わりに行ったコミュニティ祭りも、非常に子どもたちの参加が多くてですね、すごく活性化してきて、おじいちゃんおばあちゃんたちも、「何かコミュニティ祭り変わってきたね」というような、そのぐらい子どもたちの力がすごく大きくて、栗熊という小さな地区ではあるんですが、非常にコミュニティとして、また、学校もですね、子どもたちがそういった大人と触れ合う機会って貴重だということで、子どもたちに話をすると、

漆原会長

委員

「もう楽しかった、良かった。また来年もやりたい」と、そういう意見も聞きました。やはり、地域があってこそその学校だと思います。やっぱり「地域とともにある学校」という考え方も当然国も示していますが、実感しております。それとやっぱり、コミュニティの核としての学校という考え方、いわゆる両者がウインウインの関係が、当然できてこそだなあというふうに思います。そこではやっぱり、何が大事かってやっぱりふれあいなんですよね。そのためには、時間と場を共有していくということが大事で、それを仕組んでいくのが、コミュニティの役割かなというふうに思っています。

地域学校協働活動とかですね、学校運営協議会とか、いろんな仕組みづくりはあるんですが、やはり地域の方もそこに参加することに、ちょっと負担感があったりですね。何かこうやっている生きがいの部分も非常に担保しながらですね、そういうのに参加することによって、生きがいに通じていくと、これも非常に大きなところで、それがエネルギーになって、非常に活性化してきているのをすごく肌で感じています。

やはり、学校の適正配置を考えていく時に、当然この地域との関わりというのは大事になってくるわけなんですけど、やはり先ほど植田委員さんのおっしゃる通り、やっぱり町づくりの視点っていうのも当然必要なわけで、それと、これまで1回2回の話でもありましたように、やはり丸亀市が打ち出している教育大綱、いわゆる教育ビジョン、石垣プロジェクトを含めた、やはり人づくりの視点、やっぱり町づくり人づくりは、やっぱりこれ両輪かなというふうに思いますので、やはりそこから丸亀市それぞれやっぱり校区において、いろんな状況が違うと思うんですが、今回お話しいただきます3点については、その視点から十分捉えていきながら、それぞれの地区の良さを出しながら、学校が、子どもたちが、そして地域の力が、エネルギーがどんどん高まっていくような丸亀市になったらいいかなというふうに思っています。

少子化の中で、恐らく今までは学校が行政が主体になって、学校が中心なっているいろんなことをやっていたのが、今お話いただいたように、地域が学校を支えるんだ、地域住民が学校を見守っていくんだという意識が、恐らくこれから必要になるんだろうというふうに強く思います。はい、ありがとうございました。

全体的にいかがでしょうか。他に何かご意見ありましたらいただきたいと思いますが。

漆原会長

漆原会長

よろしいでしょうか。本日、適正規模・適正配置に焦点を当てて協議をして参りました。皆さんから非常に貴重なご意見いただきましたので、それを踏まえまして、事務局にはですね、次回までに答申案をご作成いただきたいというふうに思っております。次回の会議ではその答申案につきまして、委員の皆さんで協議をしたいと思っております。本日の意見を集約させていただきたいと思えます。

はい、それでは、以上をもちまして本日予定しておりました議事をすべて終了いたします。委員の皆様には、活発なご意見をいただきまして、本当にありがとうございました。

進行を事務局の方にお返しいたします。本日は貴重なご意見ありがとうございました。

ここで事務連絡をいたします。次回の第4回検討委員会は1月29日木曜日の15時から16時30分を予定しております。後日、皆様にはご予定をお聞きした上で、文書の発出をいたします。次回もご出席くださいますよう、よろしく願いいたします。

以上で、第3回丸亀市立学校適正配置等検討委員会を終了します。お気をつけてお帰りください。

事務局